



新聞まさひこ通信

あけぼの

曙

公明党福岡県議団 会報

発行責任者

福岡県議会議員

新聞 昌彦

福岡市早良区曙2-1-35

Vol.62号

平成26年11月18日発行

県政報告

9月定例会



9月定例会は、9月17日から10月7日の日程で開かれました。

公明党は、高齢の親と離れて暮らしている介護世代の意識調査を実施。代表質問で地域包括支援センターなど制度の認知度が低く、周知の徹底と市町村への支援を質問。福岡県内の高齢者のいる世帯数は、83万世帯。この内、高齢者の単身世帯は、28万世

帯、高齢者夫婦のみの世帯が22万世帯。あわせると全体の60%にもなります。今後の施策の参考にと知事に今回の調査資料を贈呈しました。

次にドクターヘリの佐賀県との相互乗り入れを提案。

知事は、相互乗り入れすることで救命率向上、後遺症の軽減に繋がるとして関係方面と協議を進めていくと答弁しました。



一般質問

中小企業・小規模事業者の支援に全力そそげ!

福岡県は、九州の中心ではあるが、企業数は年々減り続けている。危機感を持たずに放置していると「茹で蛙のたとえ」のようになると指摘。

今やるべきは、99.8%の中小・小規模事業者が活性化できるように支援することが必要。そのためには、まず現状分析を行うことが必須。

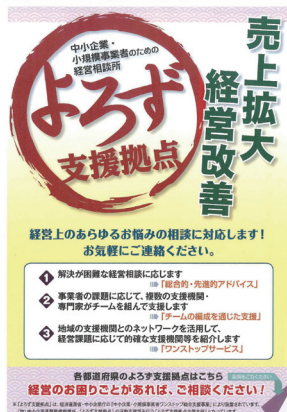
その上で、事業者がもっと相談しやすいように経営



指導員の横の連携と専門家の支援を受けやすくする仕組みを創るべきと質問。

知事は、中小・小規模事業者の課題をもっと整理していきたい。経営指導員の得意分野を生かせるよう横の連携を今まで以上に実施する。と答弁。

国が設置した「福岡県よろず支援拠点」【裏面参照】には、知事が、足を運ぶと答弁。



事業者に寄り添った支援を実施。

小規模事業者の社長は、孤独。制度も不案内。
「福岡県よろず支援拠点」では、相談者の話をじっくり聞き、問題の背景を探り、整理し、必要な支援をアドバイスしてくれます。

こんな相談所が、福岡にできました。まずは、お電話を！



Tel 092-622-7809

福岡市博多区吉塚本町9-15
福岡県中小企業振興センター6階

「福岡県よろず支援拠点」



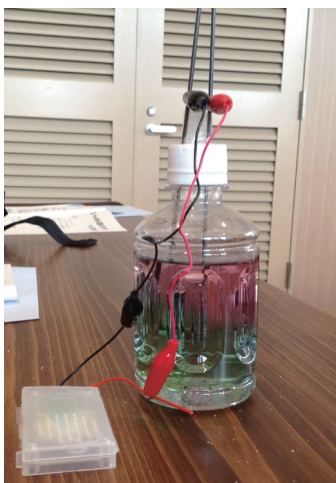
神奈川県に公明党福岡県議団で視察に参りました。

- ①高校は、入学前準備に約10万円ほど必要。
神奈川県では、予約奨学金を申請していれば、必要な生徒には入学前に奨学金を前倒して支給しています。
その仕組みを学びに伺いました。福岡県でも是非、実現したい制度です。
- ②警察官が自転車用ヘルメットをかぶり自転車に乗って、自転車の安全運転の指導を実施していました。



九大の水素研究は世界一！水素で電気を作る？燃料電池とは何ぞや！

九州大学吉田敬介教授に、実験を通して分かりやすく教えて頂きました。そして見事、電子オルゴールが鳴りました。



有田校区の「室見川灯明まつり」は、2万個の灯明を500人の地域役員で作成。3万人が訪れる。地域づくりの模範です。今年で14回目。

facebook

フェイスブック
始めました。

<https://www.facebook.com/shinkai.masahiko>



新開昌彦のホームページ

<http://www.shinkaimasahiko.com>

昭和32年6月生 西新小、百道中、大濠高校23回、創価大学7期卒業
津田産業(株)入社、神崎武法衆院議員秘書、平成11年から県議4期当選